

CASBEE京都-新築(2011年版)
京都府南警察署

■使用評価マニュアル/CASBEE京都-新築(2011年)
 ■評価ソフト: CASBEE京都-新築2011(v.1.)

欄に数値またはコメントを記入

スコアシート		実施設計段階		重点項目等		重点項目に対する全国版評価基準の見直し		環境配慮設計の概要記入欄		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目				評価点	重み係数	評価点	重み係数							
Q 建築物の環境品質														
Q1 室内環境														
1 音環境														
1.1 騒音														
1 室内騒音レベル														
2 設備騒音対策														
1.2 遮音														
1 開口部遮音性能														
2 界壁遮音性能														
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)														
4 界床遮音性能(重量衝撃源)														
1.3 吸音														
床タイルカーペット 天井化粧石膏ボード吸音タ														
2 温熱環境														
2.1 室温制御														
1 室温														
2 負荷変動・追従制御性														
3 外皮性能														
4 ゾーン別制御性														
5 温度・湿度制御														
6 個別制御														
7 時間外空調に対する配慮														
8 監視システム														
2.2 湿度制御														
2.3 空調方式														
3 光・視環境														
3.1 昼光利用														
1 昼光率 ●自然 A(全国版準用)														
2 方位別開口														
3 昼光利用設備 ●自然 B(推奨内容)														
3.2 グレア対策														
1 照明器具のグレア														
2 昼光制御 ●自然 B(推奨内容)														
3 映り込み対策														
3.3 照度														
3.4 照明制御														
4 空気環境														
4.1 発生源対策														
1 化学汚染物質														
2 アスベスト対策														
3 ダニ・カビ等														
4 レジオネラ対策														
4.2 換気														
1 換気量														
2 自然換気性能 ●自然 A(全国版準用)														
3 取り入れ外気への配慮														
4 給気計画														
4.3 運用管理														
1 CO ₂ の監視														
2 喫煙の制御														
Q2 サービス性能														
1 機能性														
1.1 機能性・使いやすさ														
1 広さ・収納性														
2 高度情報通信設備対応														
3 バリアフリー計画 ●大切 D(独自基準)														
1.2 心理性・快適性														
1 広さ感・景観 ●とも C(独自加点)														
2 リフレッシュスペース														
3 内装計画 ●とも D(独自基準)														
1.3 維持管理														
1 維持管理に配慮した設計														
2 維持管理用機能の確保														
2 耐用性・信頼性														
2.1 耐震・免震														
1 耐震性														
2 免震・制振性能														
2.2 部品・部材の耐用年数														
1 躯体材料の耐用年数 ●大切 A(全国版準用)														
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔														
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔														
4 空調換気ダクトの更新必要間隔														
5 空調・給排水配管の更新必要間隔														
6 主要設備機器の更新必要間隔														

2.4 信頼性					4.2	0.19	-	-	
1	空調・換気設備				3.0	0.20	-	-	
2	給排水・衛生設備			節水器具、緊急排水槽、井水利用を行っている。	5.0	0.20	-	-	
3	電気設備			非常用発電、無停電電源、受電の二重化等	5.0	0.20	-	-	
4	機械・配管支持方法				3.0	0.20	-	-	
5	通信・情報設備			メタル・光、引込2ルート化、地上階への設置	5.0	0.20	-	-	
3 対応性・更新性					3.3	0.29	-	-	3.3
3.1 空間のゆとり					4.2	0.31	-	-	
1	階高のゆとり			階高さ4.2m以上確保	5.0	0.60	1.0	-	
2	空間の形状・自由さ	●大切	A(全国版準用)		3.0	0.40	1.0	-	
3.2 荷重のゆとり					3.0	0.31	2.0	-	
3.3 設備の更新性					3.0	0.38	-	-	
1	空調配管の更新性	●大切	A(全国版準用)		3.0	0.17	-	-	
2	給排水管の更新性	●大切	A(全国版準用)		3.0	0.17	-	-	
3	電気配線の更新性	●大切	A(全国版準用)		3.0	0.11	-	-	
4	通信配線の更新性	●大切	A(全国版準用)		3.0	0.11	-	-	
5	設備機器の更新性	●大切	A(全国版準用)		3.0	0.22	-	-	
6	バックアップスペース				3.0	0.22	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)					-	0.30	-	-	4.1
1 生物環境の保全と創出		●とも	A'(全国版準用)		3.0	0.30	-	-	3.0
2 まちなみ・景観への配慮		○	C(独自加点) D(独自基準)	庇、飾り庇(軒木製)、ルーバーを設置	5.0	0.40	-	-	5.0
3 地域性・アメニティへの配慮					4.0	0.30	-	-	4.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上		●とも、 自然	A'(全国版準用)	飾り屋根の設置	5.0	0.50	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上		●とも	A(全国版準用)		3.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性					-	-	-	-	3.5
LR1 エネルギー					-	0.40	-	-	3.7
1 建物の熱負荷抑制				PAL値256.5	4.0	0.30	-	-	4.0
2 自然エネルギー利用					3.5	0.20	-	-	3.5
2.1 自然エネルギーの直接利用		●自然	A(全国版準用)		3.0	0.50	-	-	
2.2 自然エネルギーの変換利用		●自然	A(全国版準用)	太陽光発電、太陽熱パネルの採用	4.0	0.50	-	-	
3 設備システムの高効率化					4.3	0.30	-	-	4.3
集合住宅以外の評価(ERRIによる評価)				ERR=22.4%	4.3		-	-	
集合住宅の評価					4.0		-	-	
4 効率的運用					3.0	0.20	-	-	3.0
4.1 モニタリング					3.0	0.50	-	-	
4.2 運用管理体制					3.0	0.50	-	-	
LR2 資源・マテリアル					-	0.30	-	-	3.5
1 水資源保護					3.8	0.15	-	-	3.8
1.1 節水				節水器具、自動水栓の採用	4.0	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用					3.6	0.60	-	-	
1 雨水利用システム導入の有無		●自然	A(全国版準用)	屋根雨水を植栽灌水に利用している。	4.0	0.67	-	-	
2 雑排水等利用システム導入の有無					3.0	0.33	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減					3.4	0.63	-	-	3.4
2.1 材料使用量の削減		●大切	B(推奨内容) D(独自基準)		2.0	0.07	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用					3.0	0.24	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		●大切	B(推奨内容) D(独自基準)		3.0	0.20	-	-	
2.4 非構造材料におけるリサイクル材の使用		●大切	A'(全国版準用) B(推奨内容)		3.0	0.20	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材		●自然	B(推奨内容) D(独自基準)	府内産木材の使用	4.0	0.05	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		●大切	A(全国版準用)	躯体RC部分の最小化、設備スペースの確保	5.0	0.24	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避					3.6	0.22	-	-	3.6
3.1 有害物質を含まない材料の使用				有害物質を排出す材料の採用なし	5.0	0.32	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避					3.0	0.68	-	-	
1 消火剤					-	-	-	-	
2 発泡剤(断熱材等)					3.0	0.50	-	-	
3 冷媒					3.0	0.50	-	-	
LR3 敷地外環境					-	0.30	-	-	3.2
1 地球温暖化への配慮					3.6	0.33	-	-	3.6
2 地域環境への配慮					3.1	0.33	-	-	3.1
2.1 大気汚染防止					3.0	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善		●とも	A(全国版準用)		3.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制					3.7	0.25	-	-	
1 雨水排水負荷低減				雨水貯留槽の設置30トン	4.0	0.25	-	-	
2 汚水処理負荷抑制					3.0	0.25	-	-	
3 交通負荷抑制				自転車置場、駐車場の確保(署内、外来とも)	5.0	0.25	-	-	
4 廃棄物処理負荷抑制					3.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮					3.0	0.33	-	-	3.0
3.1 騒音・振動・悪臭の防止					3.0	0.40	-	-	
1 騒音					3.0	0.33	-	-	
2 振動					3.0	0.33	-	-	
3 悪臭					3.0	0.33	-	-	
3.2 風害、日照阻害の抑制					3.0	0.40	-	-	
1 風害の抑制					3.0	0.70	-	-	
2 砂塵の抑制					3.0	-	-	-	
3 日照阻害の抑制					3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制					3.0	0.20	-	-	
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策					3.0	0.70	-	-	
2 屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		●大切	B(推奨内容)		3.0	0.30	-	-	

記号凡例 ●:重点項目 ○:低炭素景観創出に係る項目

重点項目キーワード凡例 「大切」:大切に使う 「とも」:ともに使う 「自然」:自然からつくる